

2022（令和4）年度事業報告書

（事業活動の状況の概要及びこれに関する数値のうち重要なものを記載した書類）

自 2022年4月 1日
至 2023年3月31日

公益社団法人 相模原・町田大学地域コンソーシアム

目次

1 事業業績の概要	p. 2
2 自己点検・評価結果	p. 4
(1) 公益目的事業の評価	p. 4
(2) 収益事業の評価	p. 7
(3) 法人の管理運営	p. 7
3 公益目的事業の業績	p. 8
(1) 教育学習事業：多彩な学びの場を市民に提供する事業	p. 8
(2) 人材育成事業：まちづくりの担い手を育成する事業	p. 17
(3) 地域発展事業：生活・文化・福祉・産業の発展に寄与する事業	p. 24
4 収益事業	p. 31
5 管理運営	p. 32

1 事業業績の概要

本法人は、2022年度から2024年度の3か年を設立目的に立ち戻り、設立趣旨である魅力あふれる地域社会の創造を再認識するとともに、本法人の加盟機関が持つリソースを活用した地域課題の解決を活動の目標として掲げた。新型コロナウイルス感染症の終息が見られないうちでも、感染拡大の防止に注意を払いながら事業計画に掲げた各事業の実施に努めた。また、相模原市立市民・大学交流センター（以下センター）の指定管理業務については、引き続き感染拡大の状況をみながら適切な施設の運営を進め、開館時間などは通常の状態に戻ったものの、市民の施設利用や事業イベントへの参加については通常に戻ることはなかった。

教育学習事業では、「さがまちカレッジ」において、加盟機関の専門性を活かしながら、市民が快適で充実した生活を送るための講座56講座を実施した。コロナ禍に対応する生涯学習機会の創出に取り組み、対面講座の他、オンラインでの講座開講に取り組んだ。「相模原市・座間市市民大学」においても対面とオンラインを併用して実施した。センターで開催した「オーサーズカフェ」は、24講座を実施し、平均34人、総数814人の市民がさまざまなジャンルのトピックを聴講した。教育学習系の事業については、根強い人気と安定的な満足度を収めることができた。

人材育成事業では、「さがまちインターンシップ」「さがまち学生 Club」「まこちゃん教室」とともに、オンラインを併用するなどコロナ禍に対応したプログラムを再構築し事業を実施した。結果としてはいずれも参加学生数は前年度を上回り、参加学生及び協力団体から高い満足度・評価を得ることができた。

地域発展事業では、「学生映像制作」については、7大学、17チームが番組制作に参加し、映像制作の技術の向上とともに、地域に対する理解を深めることができた。CM・PR 動画制作については、行政からの依頼を受けて4大学4チームが「相模原市自転車事故対応プロセス CM」を制作し、いずれの作品も完成度が高いとの外部評価を受けた。「地域情報誌制作」では、学生の視点で企画から取材、執筆を行う「情報誌さがまち」の紙面版を3年ぶりに発刊し、地域の魅力を発信した。

会員については、賛助会員から移行した1機関を加えて正会員は36機関、賛助会員は正会員に1機関が移行、1機関が退会し、計10機関となり、会員総数は46機関である。役員については、理事1人が新たに就任し、役員の現員は理事8人、監事2人となった。

管理運営については、引き続き新型コロナウイルス感染症拡大防止に努めるとともに、国が進める働き方改革の観点からも、「長時間労働の是正」と「有給休暇取得の促進」を進めた。

センターの運営については、第4期（令和4年度～令和8年度）指定管理者として、センターの目的である市民と大学の橋渡しや、交流、研究、対話等の機会の提供に従事した。コロナの終息に向けて対面でのイベントとWEB会議システムを併用するなど、実施方法の見直しを行うことで可能な限りセンターのプログラムを実施することができた。さがみはら地域づくり

大学の運営については、広報活動を強化することで定員をほぼ満たすことができた。センターの職員体制については、職員の退職に伴い必要な人員を補充採用し、適切な配置を行った。

収支予算については、当初予算、収入 136,618 千円（前年度比 120.4%）、支出 136,501 千円（前年度比 120.5%）を計上し、収支差額は 117 千円としていたが、途中、補正予算を編成し、収入 144,384 千円、支出 144,267 千円とした。

財政構造については、収入の 39.6%を受託事業費が占めており、その割合は、昨年度に比べ +18.2%であった。また、収入の 26.5%は指定管理料収入、26.5%は施設等利用料収入が占め、会費収入の割合は 4.1%（前年比 4.9%）であった。受託事業費が占める割合が増加した理由は、町田市からの人材育成事業に係る受託事業が増えたためである。しかしながら単年度の事業が多いため、引き続き会費収入及び、受託事業を継続的に獲得し、収入の拡大を図ることで安定的な財源を確保し、健全な財政基盤の確立に努めていく必要がある。

2 自己点検・評価結果

公益目的事業について、事業計画において設定した目標値に対する達成状況や取組実績に対して自己点検と評価を行った。収益事業については、実績とその評価を付記し、法人の管理運営については、実績を付記した。

今回の評価結果は、2022（令和4）年度事業計画における目標値に対する評価である。

◇評価基準

- S：目標を超えて達成されている
- A：目標が達成されている
- B：目標がおおむね達成されている
- C：目標の達成が不十分である
- D：目標がほとんど達成されていない

(1) 公益目的事業の評価

ア 教育学習事業

プログラム名	事業計画における目標値	取組実績	評価
さがまちカレッジ	講座数：40 講座 受講者数：850 人 理解度・満足度：80%	講座数：企画 60 講座、実施 56 講座 受講者数：914 人 理解度：93.3%、満足度：94.6%	S
相模原市・座間市 市民大学	円滑な運営 講座数：36 講座 受講者数：1,400 人 理解度・満足度：80%	講座数：32 講座 受講者数：754 人 理解度：87.1%、満足度：91.5%	B
センター・オーサーズカフェ	講座数：24 講座 参加者数：600 人 満足度：80%	講座数：24 講座 参加者数：814 人 満足度：100%	S
センター・ユニコムセミナー	講座数：2 講座 参加者数：50 人 満足度：80%	講座数：3 講座 参加者数：159 人 満足度：100%	S

イ 人材育成事業

プログラム名	事業計画における目標値	取組実績	評価
キャリア支援 4 STEP PROGRAM	社会情勢に沿ったプログラムの再構築を検討	キャリア支援プログラムの再構築に向けて、大学・企業等へのヒヤリングを実施。	C
子ども社会体験推進	子ども起業体験：1 回 参加児童数：30 人 満足度：80%	子ども起業体験事業に実行委員として参画 起業体験：1 回、参加児童数：43 人	A

さがまちインターンシップ	コロナ禍に対応したインターンプログラムの実施 参加学生満足度：80% アンケートの実施・分析	コロナ禍に対応したインターンプログラムを実施 受入先数：15 団体 参加学生：56 名 学生満足度：94.3%	A
さがまち学生 Club	コロナ禍に対応した学生活動プログラムの実施 参加学生数：30 人 コラボレーション件数：10 件 参加学生満足度：80% アンケートの実施・分析	オンラインをメインに学生活動を展開。 参加学生数：13 大学、44 人（企画参加学生数延べ 154 人） 企画数：21 企画 学生満足度：100%	S
まこちゃん教室	コロナ禍に対応した学習支援プログラムの実施 教室開催数：32 回 課外授業数：3 回 アンケートの実施・分析	オンラインにも対応した学習支援プログラムを実施。 教室開催数：32 回 課外授業数：4 回 受講生徒数：90 人 受講生満足度：93% 学習支援員：10 大学、48 人 学習支援員満足度：100%	A
センター・さがみはら地域づくり大学	講座数：19 講座 申込者数：40 人 理解度：80%	講座数：19 講座 申込者数：コース申込者 23 人（他に、講座単位の申込者延べ 101 人） 理解度：90%	A

ウ 地域発展事業

プログラム名	事業計画における目標値	取組実績	評価
学生映像制作	コロナ禍に対応した学生映像制作プログラムの実施 番組制作 参加チーム：12 チーム 作品数：12 本 CM・PR 動画制作 参加チーム：8 チーム 作品数：3 本 さがまちバンバンアワードの実施	番組制作 参加チーム数：7 大学、17 チーム 作品数：17 作品 CM・PR 動画制作 参加チーム：4 チーム 作品数：4 本	A
地域情報誌制作	参加学生数：30 人 年間発行回数：1 回	参加学生数：13 大学、44 人 年間発行回数：年 1 回発行「さがまち vol. 27」	A
地域情報発信	HP アクセス数：40,000 件 更新数：80 件	HP アクセス数：52,079 件/年 更新数：70 件/年 Facebook 公式アカウントによる情報発信 更新数：26 件/年	A

センター・市民・ 大学協働フェスタ	まちづくりフェスタ:1回 ユニコムサミット:1回 参加者数:500人 参加団体数:50団体	まちづくりフェスタ:1回 講演会と1カ月間の展示会を開催 参加者数:600人 参加団体数:24団体 ユニコムサミット:1回 参加者数:68人	A
センター・市民・ 大学交流会 (協働委員会)	開催回数:6回 参加者数:72人	開催回数:1回 参加者数:6人	C
センター・市民と 大学との橋渡し	利用者交流会:12回 相談件数:100件 連携実績件数:25件 満足度:80%	利用者交流会:12回開催 相談件数:373件 連携実績件数:25件 満足度:80%	A
センター・情報誌 発行	月1回発行(2,500部) 理解度:80%	発行:12回/毎月 発行部数:2,500部 相模原市内の217か所に配布 理解度80%	A
センター・団体登 録	登録団体数:50団体(+10 団体、対前年比125%増)	登録団体数:43団体	B
センター・ホーム ページ運営	HPアクセス数:300,000件	アクセス数:213,528件	C

(2) 収益事業の評価

取組み	事業の主な内容	実績	評価
センターの施設等の管理運営事業 (収益事業)	この事業は、一般市民などがセンターの施設等を利用するにあたり、相模原市条例に定める適正な料金のもとに次のサービスを提供し、利用者の便宜を図る。もって公益目的事業の推進への寄与を目指す。 ①シェアードオフィス運営支援 (NPO 法人や企業などが市民活動、地域貢献活動の拠点として利用するシェアードオフィス(共用貸事務所)の利用者有料支援) ②会議室等の貸し出し(セミナールーム、ミーティングルーム、AV スタジオ、実習室、情報コーナー、マルチスペースの有料貸し出し) ③備品等の貸し出し (機械、映像機材、各種ソフト、備品の有料貸し出し) ④利用者サービス(コピーサービス(有料)、無線 LAN (Wifi-Spot) (無料))	①シェアードオフィス利用者運営支援 利用者数：14 団体・個人 (令和 5 年 3 月 31 日現在) ②会議室等の貸し出し 一般利用者数：104, 555 人 利用率：63. 5% ③備品等の貸し出し ④利用者サービス コピー機：1 台設置 (有料) 無線 LAN 設置 (無料)	B

(3) 法人の管理運営

内容	計画	実績
役員等の体制の整備	1. 役員体制の整備	1. 改選による理事 7 人と監事 2 人の選任(6 月) 2. 補充の理事 1 人の選任(6 月)
指定管理施設運営体制の整備	1. 円滑な施設管理運営 2. 管理事務室職員の採用	1. 相模原市への定例報告(毎月 1 回) 2. 嘱託職員 1 人、パートタイム職員 2 人を採用
事務局体制の整備	1. 職員の採用 2. 教育・研修の実施	1. 嘱託職員 1 人、パートタイム職員 5 人を採用 2. 全員に対する接遇研修及び防災訓練の実施(1 回)
情報公開の促進	1. 法令の遵守 2. 透明性の確保 3. 会員等の利便性の向上	1. 法定事項を公表 2. 議事抄録等を公開 3. 全規程を公開

3 公益目的事業の業績

魅力あふれる地域社会の創造への寄与を目的とする、教育学習事業、人材育成事業、地域発展事業

(1) 教育学習事業

ア さがまちカレッジ

加盟機関の専門性を活かしながら、暮らしに役立つ知識や社会的な課題の解決に向けた身近な話題をテーマに講座を開講した。

実 績	
期 間	2022年4月～2023年3月
講 座 数	48プログラム62講座 内、新型コロナウイルス感染症の影響等による中止4プログラム6講座
定 員 数 等	定員数：1,141人 申込者数：2,948人 受講決定者：1,151人 受講者数：914人
内 容	「快適で充実した生活を送るための学び」をコンセプトに、暮らしに役立つ話題や生活を豊かにする情報、知的好奇心を満たす学術的知識、社会的な課題解決など様々な切り口で各大学等において講座を企画した。新型コロナウイルス感染症の影響で実施判断の難しい局面もあったが、安全面に注意した講座運営を行い40プログラム49講座を開催した。開催数の内3講座はオンライン形式で開催した。内23講座は、町田市生涯学習センターとの協働の下、同センター及び市内公共施設を会場として開催した。また、8月に町田市・多摩市・稲城市子ども体験塾実行委員会からの委託を受け、3市の小・中学生を対象に将来の夢や目標について具体的に考えるきっかけとするためのプログラム、多摩・島しょ広域連携活動助成金事業「夏休み子ども体験塾『なりたいシゴトを体験しよう!』」を5プログラム10講座実施(4プログラム7講座を開催)した。
自 己 評 価	新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、内容、開催方法ともに多様な講座の提供をすることができた。また、委託を受けた「夏休み子ども体験塾『なりたいシゴトを体験しよう!』」では、148人の定員に対し1,098人の申し込みがあった。大変盛況であったことから委託者から高評価を得ることができた。受講者の理解度、満足度はともに90%を大きく超え、様々な世代の市民が楽しめる講座を提供することができた。中止をせざるを得なかった講座があったが受講者数は目標に達し、受講者の理解度、満足度も目標を大きく超えたため、「S」と評価する。
課題と改善策	・地域の生涯学習の場として、より多様な地域市民に関心を持たれるようになるため、受講者のアウトカム評価や関心を分析し、講座を拡充する。 ・小学生を中心に「こども」を対象とした体験講座の充実を図る。
会 議 等	さがまちカレッジプロジェクト会議 開催日：2022年4月19日、7月13日、10月11日、2022年2月21日

収 支	受講料収入及び委託事業費に加え、会費収入の一部を充当		
実施の様子			

1) 開催講座実績

	講座名	開催日	提供団体	受講者数
1	多色使いのオリジナルストールを作しましょう※	5月29日	女子美術大学	9人
2	おとなの「遊び講座」～大いに遊んで、笑ってコロナ疲れを吹き飛ばしましょう!!～※	6月4日		25人
3	子ども探究チャレンジ連続講座～天秤ばかりをつかって計算のしかたを探究しよう!!～※	5月15・22日	ものづくり文化振興協会	10人
4	くすりの玉手箱～漢方薬のひみつ～(午前コース)※	2023年4月に 変更	北里大学	-
5	くすりの玉手箱～漢方薬のひみつ～(午後コース)※	2023年4月に 変更	北里大学	-
6	進化ってなんだ!?!～頭蓋骨ペーパークラフトを作ってたしかめよう～ (申し込み多数のため追加し、2回実施)	7月27日	麻布大学	74人
7	プログラミングで感染シミュレータを作ろう(午前コース)	9月17日	青山学院大学	9人
8	プログラミングで感染シミュレータを作ろう(午後コース)	9月17日	青山学院大学	16人
9	自然や絵画の中のカタチでフロッタージュ創作!(午前コース)※	7月30日	女子美術大学	14人
10	自然や絵画の中のカタチでフロッタージュ創作!(午後コース)※	7月30日	女子美術大学	12人
11	日本刺しゅうと金箔でつくる!キラキラポーチ※	7月31日	女子美術大学	9人
12	親子で遊ぼう!バルーンバグパイプでリズム遊び※	8月1日	東京造形大学	23人
13	【さがまちwebカレッジ】 自分の絵を動かしてみよう!ーキャラクターデザイン&GIFアニメーション教室ー	8月2・3・4日	女子美術大学	10人
14	アンデス文明を学び、キャラクターをデジタル刺繍してみよう!	8月5日	女子美術大学	12人
15	手づくりおもちゃワークショップ～身近な素材から独楽・凧をつくってみよう～	中止	和泉短期大学	-
16	Kids English in SALESIO	中止	サレジオ工業高等専門学校	-

17	絵のなかのどうぶつたちが教えてくれる絵心ー色やかたちの自由さと“どうぶつらしさ”ー	8月19日	女子美術大学	24人
18	【学生講師プログラム】 楽しく環境を学ぼう in 鶴見川ー川で学ぶ身近な自然ー	8月20日	和光大学	20人
19	子ども探究チャレンジ連続講座 ～地図・生き物・機械を探究しよう！！ ～※	8月21・28日・9月3日	ものづくり文化振興協会	13人
20	【学生講師プログラム】 相模川の石を砕いて絵具を作ろう	8月27日	女子美術大学	20人
21	幾何学描画ソフト GeoGebra による実践講座「図形とあそぼう」	8月1日	青山学院大学	12人
22	【さがまちwebカレッジ】 中学生のための初級薬学講座 ～薬の秘密を確かめよう～	8月7日	相模原市薬剤師会	19人
23	薬の効果を目で見てみよう ーいのちを守る抗菌薬のはたらきー	8月18日	昭和薬科大学	11人
24	実験で体験しよう！～混ぜると光る化学の不思議～	8月19日	昭和薬科大学	23人
25	ハンドベル集中講座ー天使のハーモニーを楽しむー※	7月2・3日		13人
26	世界に繋がる岩絵具<天然顔料>ー素材から考えるSDGs	7月18日	女子美術大学	20人
27	【学生講師プログラム】 相模川の石を砕いて絵具を作ろう	8月27日	女子美術大学	20人
28	軍都計画・首都圏整備と相模原・町田 (講師都合により、Zoomにて実施)	8月28日	桜美林大学	21人
29	北里柴三郎の業績ー見えざる敵、伝染病との戦いー	9月4日	北里大学	19人
30	ソックスパペットを作ろう※	9月8日	和光大学	20人
31	伝統的な金工技術を用いてオリジナルデザインのシルバーリング制作しよう※	9月22・29日・10月13・20日	女子美術大学	8人
32	【webカレッジ】 健康づくりのための睡眠講座	10月3日	北里大学	11人
33	正しく学ぼう、乳がんのことー治療と薬剤師の役割ついてー	中止	昭和薬科大学	
34	ハンドベル集中講座～天使のハーモニーを楽しむ～※	11月9・10日		18人
35	画像診断の仕組みと診断薬のお話※	11月24日	昭和薬科大学	9人
36	気を巡らせて“ぼかぼかな体”づくりを目指しましょう！5 ～“経路”を整えて免疫力を高めよう～※ (申し込み多数のため追加し、2回実施)	12月8日 12月12日	相模女子大学	36人

37	【特別講座】学びを楽しむインクルーシブ・セミナー ①オトナ社会を賢くサバイブ！法律の基礎知識	10月1日	相模女子大学	25人
38	【特別講座】学びを楽しむインクルーシブ・セミナー ②こころのリフレッシュ☆自分をコントロールする心理学	10月22日	相模女子大学	23人
39	【特別講座】学びを楽しむインクルーシブ・セミナー ③ヒトはなぜ、〇〇する？“あたりまえ”を深める哲学入門	12月10日	相模女子大学	34人
40	【学生講師プログラム】 さがまち山脈をつくろう～シルクスクリーンで手ぬぐいに印刷しよう（午前コース）※	10月29日	東京造形大学	2人
41	【学生講師プログラム】 さがまち山脈をつくろう～シルクスクリーンで手ぬぐいに印刷しよう（午後コース）※	10月29日	東京造形大学	4人
42	日本画の古典技法を学ぶー絹に描いてみましょう※	1月21・22日	女子美術大学	12人
43	足指セパレーターで歩き方向上！※	2月4日	ものづくり文化振興協会	17人
44	鶴見川の自然観察講座～足元の自然に目を向けて早春の野鳥を楽しむ	2月18日	和光大学	20人
45	短編ドキュメンタリー映画制作ワークショップ～身近な“あの人”に、カメラで耳を澄ます～※	2月18日・ 3月4・12日	東京造形大学	9人
46	ニューロフィードバック入門～脳波から分かること、脳波でできること～※	2月19・26日・ 3月5・12・18日	多摩大学	19人
47	【特別講座】違法でなければ安全か？子どもたちにもその危険性を教えたい！ タバコ、お酒、カフェイン、CBDetc	3月5日	相模原市薬剤師会	20人
48	【特別講座】DX（デジタルトランスフォーメーション）を知ろう！～これからのDX推進に向けて	3月11日	相模原市	4人
49	デッサンから学ぶ日本画※	3月18・19日	女子美術大学	12人
50	アートの心理学ーアート作品を通して見るこころのメカニズムー	3月19日	女子美術大学	24人
51	くすりの玉手箱～漢方薬のひみつ～（午前コース）※	4月2日	北里大学	11人
52	くすりの玉手箱～漢方薬のひみつ～（午後コース）※	4月2日	北里大学	10人
53	コマづくりを通して回転バランスの大切さを知ろう！（午前コース）	8月17日	ものづくり文化振興協会	16人

54	コマづくりを通して回転バランスの大 切さを知ろう！（午後コース）	8月17日	ものづくり文 化振興協会	16人
55	動画の撮影・編集にチャレンジ！	8月18・20・ 21日	Sketch of Japan	16人
56	色で遊ぼう！LEDで光るカラフルなミニ チュアハウス（午前コース）	8月19日	女子美術大学	16人
57	色で遊ぼう！LEDで光るカラフルなミニ チュアハウス（午後コース）	8月19日	女子美術大学	16人
58	読んで、聞いて楽しめるデジタルブック を作ろう！（午前コース）	8月23日	相模女子大学	16人
59	読んで、聞いて楽しめるデジタルブック を作ろう！（午後コース）	8月23日	相模女子大学	16人
60	ロボットを作ってプログラミングで動 かそう！（午前コース）	中止	株式会社プロ スク	(12人)
61	ロボットを作ってプログラミングで動 かそう！（午後コース）	中止	株式会社プロ スク	(12人)
62	ロボットを作ってプログラミングで動 かそう！（高学年コース）	中止	株式会社プロ スク	(12人)

・※町田市生涯学習センターとの連携講座

・（人）は受講決定者数

・53～62は多摩・島しょ広域連携活動助成金事業「夏休み子ども体験塾『なりたいシゴトを体験しよう！』」で実施

イ 市民大学（相模原市及び座間市教育委員会委託事業）

高等教育機関の機能を活用し、社会が抱える諸課題と市民の学習ニーズに基づく入門的・継続的な学習機会を提供した。

実 績	
期 間	2022年4月～2023年3月
講 座 数	14コース、32講座
定 員 数 等	定員数：1,258人 申込者数：826人 受講者数：754人
内 容	新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、Zoomを使用したオンライン講座と学校等を会場とする対面講座、さらにはオンラインと対面を併用したハイブリッド型講座の3形態で実施した。相模原市の高齢者大学（あじさい大学）を統合し、10講座を市民大学として実施した。
自 己 評 価	新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、前年度から導入したオンライン形式の講座は、市民の受講機会の幅を広げる意味でも有効な開催形式となった。オンライン講座の実施にあたり、講師・学校、受講者双方が安心して講義し、受講できるような講座運営を行った。受講者の市民大学に対する満足の評価は90%を超え、主催者の評価とともに高かったが、受講者数は目標に届かなかったため「B」と評価する。
課題と改善策	・受講者ならびに主催者の満足度を維持するため、主催者、受講者双方の意見を参考にして、より円滑な運営を行う。

	<ul style="list-style-type: none"> ・3形態の講座の実施（対面、オンライン、併用）について、円滑な運営に努める。 ・各校の特色を生かした良質の講座をより多くの地域市民に知らしめるために、本会 HP や広報物を活用し、引き続き受講者の拡大に努める。
会 議 等	連絡会議 開催日 2022年5月16日、2023年2月6日
収 支	市民大学委託事業費の全額を充当
実施の様子	

企画講座実績

	講座名	主催校
1	近代日本のはやり歌を知るⅣ～レコードに録音された文化～	相模女子大学
2	D. H. ロレンスの『チャタレー夫人の恋人』を知っていますか？	相模女子大学
3	食べることは生きることー美味しく、安全に、健康にー	麻布大学
4	牛などの産業動物の健康・機能・形態：ヒトの役に立つのももつともです。	麻布大学
5	児童虐待の実態と支援 ※2	和泉短期大学
6	地域で生活する高齢者の支援	和泉短期大学
7	初期写真から見る幕末・明治の女性のきもの ※1	女子美術大学
8	健康で豊かな人生のための基礎知識 ※1	北里大学
9	暮らしに役立つ医療の知識 ※1	北里大学
10	健康の保持と介護予防 ※1	医療ビジネス観光福祉専門学校
11	心と身体の、生命機械理工学 ※2	青山学院大学
12	コロナ後の地球規模課題 ※2	青山学院大学
13	生涯教育と大学の役割 ※2	青山学院大学
14	これからの「コミュニティ」を考える ※2	青山学院大学
15	ゴッホの読み方ー夏目漱石、白樺、民芸、小林秀雄の視点から ※1	多摩美術大学
16	いまどきの教科書 ※1	東京家政学院大学

17	空襲体験記を読むー個人の記録から近現代史を学ぶ	法政大学
18	Active English in the News (中級) -前期- ※1	サレジオ工業高等専門学校
19	Active English in the News (中級) -後期- ※1	サレジオ工業高等専門学校
20	オスカー・ワイルドの世界を探訪するーその生涯と作品ー	和光大学
21	自助・共助ってなに？ー災害時、一人ひとりの行動が家族と地域を救うー	行政 (相模原市)
22	座間、相模原とその近隣地域について学ぶ	行政 (座間市)
23	健康体操：体験・学ぶ～気軽にできる心と体の健康法～	あじさい大学
24	健康体操：太極拳～自己体力を超越した耐久力を養っていく健康法～	あじさい大学
25	健康スポーツ：バウンドテニス～いつでもどこでも誰でも気軽に楽しめる生涯スポーツ～	あじさい大学
26	健康体操：体験・学ぶ～目からウロコの効果的な体力づくり～	あじさい大学
27	健康体操：体験・学ぶ～自分の身体を整えるセルフコンディショニング～	あじさい大学
28	健康音楽：コーラス～笑顔で歌って健康仲間作り！～	あじさい大学
29	健康スポーツ：グラウンド・ゴルフ～いつでも、どこでも、だれでもできる楽しいゲーム～	あじさい大学
30	健康スポーツ：ペタンク～フランス生まれのおしゃれなスポーツ！～	あじさい大学
31	健康体操：伝える～長寿社会の健康サポート講座～	あじさい大学
32	健康体操：伝える～生きがいづくり応援講座～	あじさい大学

※1 オンライン講座 ※2 ハイブリッド型講座

ウ オーサーズカフェ (指定管理事業)

さまざまなジャンルから話題性の高いトピックを取り上げてトーク形式で解説する参加自由なカフェ形式のセミナーを提供した。

実 績	
期 間	通年 (隔週土曜日 14:00～15:00)
講 座 数	24 講座
定 員 数 等	定員数：定員数は特に設けていない 参加者数：814 人、平均参加者数：34 人
内 容	健康、歴史、文学、芸術、自然科学、環境など、多彩なテーマについて第一線で活躍している大学教授や各界の専門家による講座を開講した。
自 己 評 価	ユニコムプラザさがみはらの特徴的なにぎわいの空間として市民に認知さ

	れており、学びのきっかけづくり、市民と大学との接点の場となっている。 参加者数は目標を上回ったので「S」と評価する。
課題と改善策	ロビーでの密集を避け、換気などの感染防止対策を行う。
収 支	指定管理者事業収益の一部を充当
実施の様子	  

	講座名	開催日	参加者数
1	本当は面白いシェイクスピア	4月9日	56人
2	着物コミュニケーションの可能性「海外利用と子供の自己肯定感向上について」	4月23日	32人
3	太陽の恵みを太陽光パネルとブルーベリーで分かち合う次世代農園	5月7日	28人
4	光の感動！大学キャンパスから街へ飛び出す	5月14日	24人
5	木を使うこと、森を守ること	5月28日	23人
6	SDGsに特化した新会社「アサヒユウアス株式会社」について	6月11日	25人
7	江戸のSDGsに学ぶ～江戸庶民のエコ生活術～	6月25日	25人
8	きく力は生きる力	7月9日	51人
9	『高齢者住宅』の基礎知識～私らしい最期を迎えるために～	7月23日	41人
10	『夏休み企画』カブトムシと遊べる安全で豊かな里山を取り戻そう！	8月13日	24人
11	『夏休み企画』Let's Drone～航空法改正に伴う、ドローン活用事例と楽しみ方～	8月27日	40人
12	『写真整理出来ていますか～人生100年時代の写真の価値と残し方～』	9月10日	36人
13	『学生服で未来へつなげる！SDGs～「誰でも・ちょっとずつ・社会貢献」を目指して～』	9月24日	12人
14	『マンガで地域活性化！～厚木市「緑ヶ丘団地」活性化プロジェクト「ミドラボ」の成果から～』	10月8日	14人
15	津久井在来大豆に魅せられて	10月22日	32人
16	『脇の甘い人、必見！「参与観察入門」～人びとの生活に巻き込まれる社会調査法～』	11月12日	28人
17	知って得する！相手を動かす心理学テクニック	11月26日	47人
18	名曲探偵が明かす ベートーヴェン《第九》のヒミツ Season 8	12月24日	45人

19	垣根を超える協働が団地・地域の未来を切り拓く！～子どもたちに、誰にもやさしい豊かな暮らしを引き継ぎたい～	1月14日	29人
20	転倒の仕組みからひも解く転倒リスクとその予防	1月28日	50人
21	人生が270度変わった！ ケアラーズカフェから広がるつながり	2月11日	47人
22	『芸術のまち藤野』での多様な取り組み	2月25日	40人
23	桜のはなしと樹木	3月11日	44人
24	相模原で子育てを楽しもう！&おゆずり会	3月25日	21人

エ ユニコムセミナー（指定管理事業）

大学の活動状況や研究成果を分かりやすく紹介し、市民と大学の連携のきっかけ作りを提供した。

実績	
開催期間	2022年5、8、11月
開催数	3講座
参加者数	159人
内容	日常の暮らしに役立つ実践的な研究や、地域課題解決の糸口につながる専門的な話題をテーマとし、セミナー形式で解説した。
自己評価	多くの参加者が見込まれるテーマと講師で実施した。 回数、参加者数が目標を上回ったので「S」と評価する。
課題と改善策	特になし。
収支	指定管理者事業収益の一部を充当
実施の様子	   

	開催日	講座名	参加者数
1	5月1日（日）	ドクターアキヤマと不思議な科学実験を楽しもう！	29人
2	8月14日（日）	古代エジプトの魅力を親子で、作ろう！食べよう！	30人
3	11月5日（土）	「みんなの学校」上映会&リアル対話会 「見えない学力の育て方 ～こどもの事実から学ぶ大人の問い直し～」	100人

(2) 人材育成事業

ア キャリア支援 4 STEP PROGRAM

企業研究を通じた青年のキャリア形成支援を目的とし、地域の特色ある企業の調査研究を通じて業種や職種に対する認識を深め、企業研究の手法を養う。

実績	
期間	2022年4月～2023年3月
内容	引き続きキャリア支援プログラムの再構築期間と位置づけ、新型コロナウイルス感染拡大の影響により日々変化するキャリア支援の動向について関連する大学・企業の担当者へのヒヤリングを随時実施した。
自己評価	C
課題と改善策	—
会議等	—
収支	会費収入の一部を充当

イ 子ども社会体験推進

地域の小学生が「会社設立、事業計画書の作成、資金調達、仕入、製造、販売、決算」という起業プロセスを疑似体験するプログラム「さがみはら子どもアントレ」に実行委員会の一員として参画。

実績	
期間	2022年4月～2023年3月
内容	地域の小学生が「会社設立、事業計画書の作成、資金調達、仕入、製造、販売、決算」という起業プロセスを疑似体験するプログラム「さがみはら子どもアントレ」に実行委員会の一員として参画。8月中旬に3日間のこどもプログラムを実施した。
自己評価	A
課題と改善策	2023年度も実行委員として参画し、子供の社会体験に寄与していく。
会議等	子どもアントレ実行委員会 2022年4月27日、7月6日、9月22日、12月6日
収支	会費収入の一部を充当

ウ さがまちインターンシップ

学生のキャリア形成の支援として、地域産業への理解を深める、地域の特色ある企業や公共活動に取り組むNPO法人等の活動を知る事などを目的としたインターンシッププログラムの取り組み。

実績	
期間	2022年6月～2023年3月
受入先数	15団体(延べ数)
参加者数	56人(延べ数)
参加大学	青山学院大学、桜美林大学、相模女子大学、女子美術大学、玉川大学、東京

	家政学院大学、法政大学、和光大学
内 容	地域の特色ある企業や公共活動に取り組むNPO法人等と大学を結ぶ「マッチングステージ」として各インターンシッププログラムを展開。コロナ禍に対応し、実習定員の削減やオンライン説明会の導入、実習時期を学校の長期休業期間に合わせて実施するなど工夫して事業を実施した。
自 己 評 価	受入れ先である地域団体の協力を得ながらコロナ禍に対応したプログラムを実施し、結果としてほぼ定員に近い地域学生が実習を行った。参加学生及び受入団体からの評価も高かったので「A」と評価する。
課題と改善策	学生・大学・地域団体のニーズに沿ったインターンシッププログラムを推進する。
収 支	会費収入の一部を充当
実施の様子	

受入予定先別実施状況

	受入先	期間	内容
1	アイワ広告	2～3月	屋外広告事業や店舗運営及び、SDGs 活動
2	エフエムさがみ	2～3月	番組制作、アナウンス研修、音声卓操作など放送局業務に関わる業務
3	相模大野図書館	8月	貸出・レファレンス等の図書館司書業務の体験、及び図書館に対する企画のプレゼンテーション
4	さがみはら産業創造センター	8月	さがみはら子どもアントレプレナーの後方支援業務
5	相模原市民文化財団	2～3月	施設での鑑賞公演及びワークショップの対応、及び相模原市内の中学校で実施するキャリア教育関連事業の対応等
6	町田国際交流センター	2～3月	主催事業、講演会、イベントの運営補助業務
7	町田市生涯学習センター	8月	センター主催イベントの運営補助やその他広報業務の体験、及びセンターに対する企画プレゼンテーション
8	町田市地域活動サポートオフィス	8～9月	サポートオフィス HP や SNS を活用した広報業務、及び広報誌「サポートオフィス通信」の特集記事制作業務等
9	町田市ひなた村	8～9月	施設運営業務、講座・イベントの準備や実施業務、及び講座・イベント企画プレゼンテーション
10	町田市民ホール	2～3月	ホールでの運営補助、その他、各事業における準備等補助業務

11	町田新産業創造センター	2～3月	主催セミナーの運営補助、及び来年度事業の企画検討会議への参画
12	まちモビコンソーシアム	8～9月 2～3月	情報まとめサイト「まちモビ」の運営、及びイベントの企画、運営等
13	ユニコムプラザさがみはら	8～9月 2～3月	主催イベントの企画・立案や運営サポート、及びまちづくりモデル事業団体との交流イベント設営や運営、活動の課題発見や解決策の検討などの業務を体験

エ さがまち学生Club

相模原・町田地域の活性化を目的とした学生によるまちづくりの取組み。主な内容は、地域活性化をテーマとした学生企画の実施、まちおこしイベントへの参画、ボランティア活動、情報取材活動・情報発信活動など多岐にわたる。

実績	
期間	2022年6月～2023年3月
取組企画数	21件
参加者数	加盟大学の学生及び相模原・町田市在住の学生44人（企画参加学生数延べ132人）
参加大学	青山学院大学、桜美林大学、北里大学、相模女子大学、女子美術大学、多摩大学、多摩美術大学、東京家政学院大学、法政大学、和光大学、相模原・町田地域在住大学生
内容	まちづくりへの関わりを通じて青年の社会適応力の育成を目的とする。クラブに所属する学生の自主性のもと、2022年度は原則オンライン（月に1度オフライン）で活動を行い、様々な相模原市、町田市の地域団体と連携し、21件のまちづくり企画を実施した。
自己評価	コロナの状況に合わせて、オンライン会議とオフライン会議の両方を駆使し、今だからこそできる学生によるまちづくり活動を推進することができた。また今年度は初の学生Club主催のイベントを行い、各種新聞・メディアにも取り上げられるなど、地域からの注目度は年々高まった。参加学生及び協働団体からの評価も高いうえに、参加学生数、企画数ともに大きく目標を上回ったため「S」と評価する。
課題と改善策	コロナの状況に合わせた学生組織体制及び付随するディレクション業務のさらなる効率化を図る。
収支	委託事業費及び会費収入の一部を充当
実施の様子	  

活動の実績

	内容	実施月	参加者	依頼元
1	イベント「つながりマルシェ」	6月 ～10月	(学生) 27人	町田市文化振興課
2	エフエムさがみ「学生ラジオ番組」の制作	6月 ～10月	(学生) 7人	エフエムさがみ
3	子宮頸がん予防啓発プロジェクト	6月 ～10月	(学生) 4名	相模原市健康増進課
4	交通安全・特殊詐欺防止啓発プロジェクト	6月 ～10月	(学生) 5名	町田市市民生活安全課
5	ねんりんピック PR 動画制作	6月 ～10月	(学生) 4名	相模原市スポーツ推進課
6	紙面版「情報誌さがまち」の制作	11月 ～3月	(学生) 5名	自主プログラム
7	イベント「学生天国」への参画	11月 ～3月	(学生) 5名	大学コンソーシアム八王子
8	町田市「ガクマチ EXPO」への参画	11月 ～3月	(学生) 5名	町田市生涯学習センター
9	相模原市統一地方選挙若年層向け啓発動画の作成	11月 ～3月	(学生) 4名	相模原市選挙管理委員会
10	生物多様性 PR プロジェクト	11月 ～3月	(学生) 4名	相模原市水・みどり環境課
11	中央区魅力づくりアイデアプレゼンプロジェクト	11月 ～3月	(学生) 4名	中央区役所
12	活動報告会	3月	(学生) 22名	自主プログラム
13	学生記者プロジェクト	通年	(学生) 6名	東京新聞
14	相模原お店大賞実行委員会オブザーバーとして参画	通年	(学生) 2名	相模原お店大賞実行委員会
15	町田市生涯学習センター運営協議会委員として参画	通年	(学生) 1名	町田市生涯学習センター
16	町田市こども会議委員として参画	通年	(学生) 1名	町田市子ども総務課
17	相模原市淵野辺駅周辺検討委員会委員として参画	通年	(学生) 1名	相模原市観光・シティプロモーション課
18	相模原市南区区民会議委員として参画	通年	(学生) 1名	相模原市南区役所区政課
19	みんなで考えよう！オーノまちづくりワークショップに委員として参画	通年	(学生) 1名	相模原市南区役所地域振興課
20	みんなで盛り上げよう！オーノにぎわいワークショップに委員として参画	通年	(学生) 1名	相模原市南区役所地域振興課
21	公式WEBサイト・フェイスブック・ツイッター・YouTube・noteの制作、公開	通年	(学生) 44人	自主プログラム

オ まこちゃん教室（町田市ひとり親家庭等子どもの生活・学習支援事業）（町田市委託事業）

町田市内のひとり親家庭等の子どもとその保護者を対象とし、日々の学習支援や課外活動・ワークショップを通し、子どもの基礎学力の定着や社会性を伸ばす無料学習塾を運営。地域の大学生が学習支援員を担う。

実績	
期 間	2022年4月～2023年3月
教室回数	(集合型) 2022年7月～翌3月まで毎週火、木曜日実施 各32回 (リモート型) 生徒・学習支援員の都合により毎週実施 各32回
実施場所	町田市健康福祉会館、生徒自宅、オンライン など
参加者数	受講生徒：小学4年～中学3年生90人(集合型：70人 リモート型：20人) 学習支援員：48人(青山学院大学、桜美林大学、玉川大学、相模女子大学、女子美術大学、多摩美術大学、法政大学、和光大学、東海大学、明治学院大学)
内 容	町田市内のひとり親家庭及び生活保護受給世帯等の子どもとその保護者を対象とし、日々の学習支援や課外活動・ワークショップを通し、子どもの基礎学力の定着や社会性を伸ばすことを目的とする。2022年度は対面とリモートを組み合わせながら、7月から毎週火曜日と木曜日に学習・生活支援教室を展開した。当年度から受け入れが始まった中学3年生に対して、高校入試対策のプログラムも展開した。
自己評価	コロナ禍においても感染予防対策を徹底し事業にあたり、年間を通して大きなトラブルもなく、生徒・保護者・学習支援員から高い運営評価を得ることができた。最終アンケート結果項目の満足度も高かったため、「A」と評価する。
課題と改善策	教室運営の課題を洗い出し、アンケート結果等と合わせて考察し、今後の運営に活かす。
課外プログラム	年に4回の課外プログラムを企画・実施 9月：境川清掃ボランティアチャレンジ(協力：アイワ広告) 11月：探求学習ディスカバ!(協力：桜美林大学) 12月：ものづくり体験講座(協力：ものづくり文化振興協会) 3月：金融講座(協力：横浜銀行)
収 支	まこちゃん教室委託事業費の全額を充当
実施の様子	

カ 町田市立町田第一中学校における学習支援事業（町田市委託事業）

町田市立町田第一中学校の図書室にて、世代を限定しない市民の自主的な学びの支援を行う。子どもをはじめとした市民の知の居場所づくりや、学習支援に関わる学生の成長促進を目的と

して図書室を運営。

実績	
期 間	2022年8月～2023年3月
実施日数	44日
実施場所	町田市立町田第一中学校図書室
参加者数	利用者数:534人 学習支援員:15人(青山学院大学、桜美林大学、玉川大学、多摩美術大学、和光大学)
内 容	仕様にある多世代交流や地域活性化につながるプロジェクトの他、マンズリーイベントを企画、開催し集客に努めた。
自己評価	-
課題と改善策	さらなる認知度の向上を目指し、公的な情報誌への掲載やチラシの配架、図書室内の環境改善を図る。
プロジェクト	年に3回の多世代交流や地域活性化につながるプロジェクトを実施 9月:みんなでわいわい楽しもう!ポッチャ大会 12月:地域のお父さんが教える!はじめてのプログラミング体験会 3月:はじめてのプログラミング&電子書籍体験会
収 支	学習支援委託事業費の全額を充当
実施の様子	  

キ さがみはら地域づくり大学 (指定管理事業)

協働の観点での地域活動及び市民活動を促進するために必要な知識や技術を体系的に学習する講座を開講した。

実 績	
期 間	通年
講 座 数	基礎コース5講座(必修3、選択2)、応用コース5講座(必修3、選択2)、専門講座3講座、計13講座 ※上記の他に、開講記念学長講演1講座、公開プレ講座2講座、特別公開講座1講座の開催を予定。
定 員 数 等	定員数:各コース・専門講座 20人、学長講演・公開プレ講座・特別公開講座 各100人 申込者数(受講予定者):101人(オブザーバー含む延べ人数)
内 容	5月募集開始、7月開講、12月にかけて予定通り実施した。 コーディネーターズサークル交流会を4回開催した。
自己評価	定員をほぼ満たすことができ、理解度についても目標値に達したので「A」と評価する。
課題と改善策	効果的な広報に取り組む。

収 支	指定管理者事業収益の一部を充当
実施の様子	  

1) 内容及び受講者数

コース	講座名	開催月	参加者数
地域活動コース	相模原を知る①	7月	17人
	地域活動をはじめ①	7月	20人
	市内施設の見学	8月	19人
	相模原を知る②	8月	17人
	市内施設・団体の見学	9月	9人
	地域活動をはじめ②	12月	9人
専門講座／テーマ実践編	さがみはら地域活動入門	9月	10人
	さがみはら社会起業入門	10月	6人
	知ろう・学ぼう防災知識	11月	8人
	実践で学ぶ会議運営のコツ	11月	9人
	さがみはらの魅力発見	12月	13人
専門講座／スキル習得編	はじめてのマーケティング	10月	13人
	情報発信の極意	11月	18人
	デジタル広報入門講座	11月	21人
市民企画講座	私にもできた！市民活動の始め方	10月	23人

コース	講座名	開催日	参加者数
公開講座	「SDGs ワークショップで地域解決をシミュレーション」	5月21日	24人
公開講座	「(第1部) いごちよかの活動を通して得たもの/ (第2部) 理科で遊ぼう会、13年の活動を振り返って」	6月18日	39人

2) コーディネーターズサークル交流会

	内容	開催日	参加者数
第1回	近況報告と意見交換	6月18日(日)	9人
第2回	近況報告と意見交換	10月16日(日)	6人
第3回	近況報告と意見交換	1月21日(日)	12人
第4回	地域見学	3月26日(日)	9人

(3) 地域発展事業

ア 学生映像制作

映像制作を通して地域への理解を深め、また、取材、企画提案、番組構成案作成、撮影等の一連の作業を通じて、協調性や他者との関係作りに必要な能力と態度を育成する。

実績	1) 番組制作 2) CM・PR 動画制作	
期間	2022年4月～2023年3月	
作品数	1) 17作品 2) 4作品	
参加団体	1) 加盟大学の17学生団体 2) 加盟大学の4学生団体	
内容	<p>1) 地域の学生が番組制作を通して地域への理解を深めること、そして学生目線の地域映像情報に接した市民が地域の魅力を再認識することを目的とするプログラム。7大学17チームがエントリーし、感染予防対策を講じながら17作品を制作。制作された作品は、学生情報局「さがまちバンバン」として、さがまちHP及びYouTube等で配信した。3月に予定されていた優秀作品の選考、表彰を行う「さがまちバンバンアワード2022」は新型コロナウイルス感染症の動向が不明確であったため対面での実施は開催せず、HP上での審査結果発表を行った。</p> <p>2) 相模原市消防局からのオファーを受け、地域の学生が4本のCM・PR動画を制作。制作した作品は地域コミュニティチャンネルや各種インターネット等で放送されている。</p>	
自己評価	各学生チームが感染予防対策を講じながら番組・CM制作を進めることが出来た。また参加した学生、監修した教員、地元地域ともに好評であったため「A」と評価する。	
課題と改善策	幅広い学生参画を目指すため、広報・プロモーション方法などを再検討し、参加者の拡大に努める。	
収支	委託事業費及び会費収入の一部を充当	
実施の様子		

1) ① 学生情報局「さがまちバンバン」作品一覧

	作品タイトル	配信開始月	制作団体
1	おしゃれご飯 in さがまち	8月	青山学院大学
2	女子美 みいつけよ!	10月	女子美術大学
3	さがまちくらべてみたら??	11月	相模女子大学

4	服部牧場に行ってみた！	1月	多摩大学
5	南町田グランベリーモール Moff animal Café に行ってきた！	1月	多摩大学
6	さがまち BUSAIKU！	2月	青山学院大学
7	学食再現対決！	2月	玉川大学
8	色彩戦闘員サブトラクター～アンチクロモスの陰謀～	3月	東京造形大学
9	わたしのまちだ。	3月	東京造形大学
10	机上のきみ	3月	東京造形大学
11	さがまち NEWS	3月	東京造形大学
12	町田で繰り広げる食べ物しりとりゲーム!!!	3月	多摩大学
13	御朱印ろおどまっぷ	3月	玉川大学
14	自分らしく生きろ	4月	相模女子大学
15	ドキュメンタリー作品「サトヤマアートサンポ」	4月	和光大学
16	Who?	4月	和光大学
17	日常に潜むホラー	4月	和光大学

1) ② さがまちバンバンアワード2022 受賞作品

	賞タイトル	作品タイトル	制作団体
1	グランプリ	机上のきみ	東京造形大学
2	準グランプリ/J:COM 賞	さがまちくらべてみたら??	相模女子大学
3	準グランプリ/MOVIX 橋本賞	さがまち BUSAIKU！	青山学院大学
4	準グランプリ/さがまち賞	色彩戦闘員サブトラクター～アンチクロモスの陰謀～	東京造形大学

2) 相模原市「自転車事故対応プロセス PR 動画」作品一覧

	作品タイトル	制作団体
1	タイムリープ篇	青山学院大学
2	あじふらい篇	相模女子大学
3	自転車魔人篇	東京造形大学
4	そんな格好で大丈夫?篇	和光大学

イ 地域情報誌制作

学生による地域情報誌制作を通して地域への理解を深め、また情報誌を手にした市民が地域のイベントや活動を知り、地域の魅力を再認識することを目的して実施した。

実 績	
期 間	2022年11月～2023年3月

参加者数	加盟大学の学生及び相模原・町田市在住の学生 44 人
参加大学	青山学院大学、桜美林大学、北里大学、相模女子大学、女子美術大学、多摩大学、多摩美術大学、東京家政学院大学、法政大学、和光大学、相模原・町田地域在住大学生
内容	地域の学生が WEB 版地域情報誌「さがまち」27 号を約半年をかけて制作。企画会議、取材、記事制作などすべての活動を学生主体で行い、加盟機関や公共施設等に配架を行った。
自己評価	情報誌制作を通して学生の社会適応能力の向上と情報発信による地域活性に寄与した。掲載内容も内外から好評であり、参画した学生数も目標を達成しているため「A」と評価する。
課題と改善策	より市民に身近な地域情報誌を目指すため、新たな配架場所や地域の協力者を獲得し、更なる地域活性を目指す。
収支	会費収入の一部を充当
実施の様子	  

地域情報誌「さがまち」27号の概要

発行数	2,500部
配架場所	相模原市・町田市内のまちづくりセンターや図書館などの公共施設、取材先など約150箇所
概要	B5版サイズ・8ページ・両面カラー
記事タイトル	<ul style="list-style-type: none"> ・5000円スイーツパーティー ・ナニカに熱中する学生たち ・発見!?さがまちのナンダコレ ・地域を盛り上げる学生の祭典 その裏側

ウ 地域情報発信

ポータルサイト「さがまち」による情報発信事業。

実績	
期間	2022年4月～2023年3月
HPアクセス数	52,079件
更新数	96件
内容	ポータルサイト「さがまち HP」及び「公式フェイスブック」の運営を通して地域情報の発信。 また加盟機関が実施する生涯学習講座やイベントなどの情報発信をはじめ、加盟機関が実施する「オープンキャンパス情報」及び「オンライン学習情報」特設サイトを開設するなど情報発信に努めた。
自己評価	公益目的事業に関わる情報発信に注力し、市民の生活に密着した情報を発信

	した。目標であるアクセス数が前年度より増加し、更新数はHPとフェイスブックを合わせた更新数が目標を上回ったので「A」と評価する。
課題と改善策	SNSの連動など時代のニーズ、シーズに沿った情報発信を心掛ける。
収 支	会費収入の一部を充当
	

エ 市民・大学協働フェスタ

地域・市民団体と大学が協働したまちづくりイベントを開催。

実 績	1) 市民・大学協働まちづくりフェスタ 2) ユニコムサミット
開 催 日	1) 2022年10月1日～10月30日（展示形式） 2) 2022年10月16日（一部オンライン）
参 加 者 数	1) 参加団体数：24団体、見学者600人（カウントできた者のみ） 2) 参加者：68人
内 容	1) 自治会・商店街・公民館の地域活動、市民団体・NPO法人の市民活動、大学の生涯学習講座や研究成果、学生の地域連携活動、企業の地域貢献活動の取組を展示する。 2) 地域・市民活動を実践する団体・個人を対象に、成功事例や課題、経験者にしかわからない隠れた問題などを紹介し、その解決方法を参加者が共有する。
自 己 評 価	1) コロナ禍により大勢の参加者が1日に集中して開催することが難しいことから、およそ1カ月間の展示会を開催した。 2) テーマ：絵本でつながる“世界”～異文化・多様性との出会い～ 以上、フェスタの開催とサミットの準備を通して関連する団体の情報共有ができたので「A」と評価する。
課題と改善策	1)、2) 共に来年度の開催に向けて日頃の活動を活発に行う。
収 支	指定管理者事業収益の一部を充当
実施の様子	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>フェスタ</p>  <p>チラシは学生が制作</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>サミット</p>  <p>チラシは学生が制作</p> </div> </div>

オ 市民・大学交流会（協働委員会）

市民と大学が地域課題の解決や地域の活性化を目的とした交流、研究、対話等を行う機会を提供。

実 績	
開催期間	2022年7月
開催数	1回（委員会形式を模索するため1回試行）
参加者数	6人
内 容	個人・団体が大学と交流する場の提供。「地域連携の考え方」、「大学の得意分野」「協力を要請したい分野」などの具体的なテーマを設定し、市民と大学との連携のきっかけを創出する。
自己評価	「絵本に関する意見交換会」として1回の市民・大学交流会（協働委員会）を開催し、活発な意見交換を行ったが、回数、参加者数が目標値に届かなかったので「C」と評価する。
課題と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会を立ち上げる。 ・幅広いテーマで実施する。
収 支	指定管理者事業収益の一部を充当
実施の様子	

	テーマ	開催日	参加者数
1	絵本に関する意見交換会	7月30日（土）	6人

カ 市民と大学との橋渡し

実 績	
期 間	通年
内 容	①シェアードオフィス利用者への支援 利用者交流会：12回開催 ②センター利用者への支援 相談件数：373件 ③市民と大学との連携実績25件
自己評価	①利用者交流会を通じて活動状況の把握とアドバイスができた。 ②受身型の相談から提案型の相談が増え、LINEなども活用している。 ③年間を通して多種多様な橋渡しを実現し、その後もフォローしており、目標通りの件数となった。 以上を踏まえて「A」と評価する。
課題と改善策	テーマを決め、より実践的な自主事業を行うことでアドバイス、提案、橋渡しを継続的に実現する。
収 支	指定管理者事業収益の一部を充当

実施の様子	大学との連携		橋本サイクル サポート ステーション (帝京大学)	
	学生服リサイクル ボックスの設置 (和泉短期大学)			

キ 情報誌発行

センター事業やセンターに係わる様々な団体の取り組みや連携に関する情報を紹介する情報誌を定期的に発行。

実績	
期間	通年
発行回数	12回
発行部数	2,500部
内容	A5版4ページ、カラー、相模原市内の約200か所に配布 センター事業の紹介、大学の活動紹介、シェアードオフィス利用者の活動紹介など、様々な取り組みや市民と大学との連携に関する有効な情報を紹介した。
自己評価	施設の設置主旨に鑑み、「市民と大学との連携」「施設でのイベント」について、タイムリーに情報発信できたので「A」と評価する。
課題と改善策	企業の地域連携活動としてのイベントにも注目していく。
収支	指定管理者事業収益の一部を充当

ク 団体登録

実績	
期間	通年
登録団体数	43団体
内容	定期的にセンターを利用する団体・フェスタへの出展者に対し登録を促す。 橋渡し案件として関わった団体に登録を促す。 新規5団体であった
自己評価	登録数は、昨年度43団体と変わらず増加できなかったため「B」と評価する。
課題と改善策	次年度もフェスタへの出展者に対して登録を促すなど、増加に努める。
収支	指定管理者事業収益の一部を充当

ケ ホームページ運営

市民や大学、企業・団体が行う多彩な活動を紹介する。センター事業をはじめ、センターと団体との共同事業、利用団体（利用者）が行う事業、その他の地域情報を幅広く紹介する。

実 績	
期 間	通年
HP アクセス数	213,528 件
更 新	毎日
内 容	例年通り活発に掲載・更新を行ったが、コロナ禍の影響が残り、利用率同様にアクセス数は戻っていない。
自 己 評 価	年間を通してアクセス数が戻っていないので「C」と評価する。
課題と改善策	より効果的な発信ができるよう、アクセス状況の分析を行う。
収 支	指定管理者事業収益の一部を充当

4 収益事業

センターの施設等の管理運営事業（公益目的事業の推進に寄与する事業）

一般市民などがセンターの施設等を利用するに当たり、相模原市条例に定める適正な料金のもとにサービスを提供し、利用者の便宜を図ることに努めた。

- (1) シェアードオフィス運営支援（NPO 法人や企業などが市民活動、地域貢献活動の拠点として利用するシェアードオフィス（共用貸事務所）の利用者有料支援）
- (2) 会議室等の貸し出し（セミナールーム、ミーティングルーム、AV スタジオ、実習室、情報コーナー、マルチスペースの有料貸し出し）
- (3) 備品等の貸し出し（機械、映像機材、各種ソフト、備品の有料貸し出し）
- (4) 利用者サービス（コピーサービス（有料）、無線 LAN（Wifi-Spot）（無料））

5 管理運営

(1) 総会・理事会

ア 社員総会

	開催日	開催場所	内容
定時 社員総会	2022（令和4）年 6月21日	ユニコムプラザ さがみはら セミナールーム2	<審議事項> (1)理事の選任について (2)監事の選任について (2)2021（令和3）年度収支決算(案)について <報告事項> ・会員の入会について ・2021（令和3）年度事業報告について ・2022（令和4）年度事業計画について ・2022（令和4）年度収支予算について ・諸規程の制定・改定について ・2022（令和4）年度事業・組織体系について ・さがまち本店の公益目的事業の実施状況について ・ユニコムプラザさがみはらの運営状況について

イ 理事会

	開催日	開催場所	内容
第78回 理事会 (定例)	2022（令和4）年 6月6日	相模女子大学 会議室2	<審議事項> (1)役員候補者について (2)第七期委員会委員候補者について (3)人事について (4)諸規定の制定と改正について (5)2021（令和3）年度事業報告（案）について (6)2021（令和3）年度収支決算（案）について (7)社員総会の議案について <報告事項> ・各委員会開催結果について ・予算の進捗状況について
第79回 理事会 (臨時)	2022（令和4）年 6月21日	ユニコムプラザ さがみはら ミーティングル ーム4	<審議事項> (1)定時社員総会の議案及び議事進行について
第80回 理事会 (臨時)	2022（令和4）年 6月21日	ユニコムプラザ さがみはら ミーティングル ーム4	<審議事項> (1)会長（代表理事）、副会長、業務執行理事の選定 について
第81回 理事会 (臨時)	2022（令和4）年 9月13日	相模女子大学 会議室2	<審議事項> (1)変更認定申請について (2)第七期委員会委員候補者について (3)人事について <報告事項> ・各委員会開催結果について ・予算の進捗状況について ・業務執行状況について ・私立大学等改革総合支援事業について
第82回 理事会	2022（令和4）年	相模女子大学 会議室1	<審議事項> (1)正会員の入会について

(臨時)	12月13日		(2)変更認定申請について <報告事項> ・賛助会員の退会について ・各委員会開催結果について ・予算の進捗状況について ・相模原市立市民・大学交流センターモニタリング結果について ・私立大学等改革総合支援事業について
第83回 理事会 (定例)	2023（令和5）年 3月14日	相模女子大学 会議室2	<審議事項> (1)人事について (2)職員の給与適用について (3)委員会委員候補者について (4)補正予算について (5)2023年度事業・組織体系（案）について (6)2023年度事業計画（案）について (7)2023年度収支予算（案）について (8)役員賠償責任保険への加入について <報告事項> ・公益目的事業の変更等に係る内閣府への対応 ・各委員会開催結果について ・予算の進捗状況について ・業務執行状況について ・職員の表彰について ・私立大学等改革総合支援事業について ・2023年度社員総会・理事会・運営委員会の開催日程について

(2) 委員会

ア 運営委員会

	開催日	開催場所	内容
第1回	2022（令和4）年 5月10日	ユニコムプラザさがみはら セミナールーム2	<報告事項> ・賛助会員の新規入会について ・人事について ・2022年度事業計画について ・2022年度収支予算について ・法人の運営状況について ・業務執行状況について <報告事項> ・2022年度 さがまち本店の事業について ・2022年度 ユニコムプラザさがみはらの事業について ・2022年度 社員総会・運営委員会の開催日程について
第2回	2022（令和4）年 10月11日	ユニコムプラザさがみはら セミナールーム2	<審議事項> ・運営委員会委員長の選任について <報告事項> ・人事について ・法人の運営状況について ・業務執行状況について ・文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」について <報告事項> ・2021年度 さがまち本店事業について

イ プロジェクト事業委員会

①さがまちカレッジプロジェクト

	開催日	開催場所	内容
第1回 (第6期 第8回)	2022年4月19日	相模女子大学 茜館 催事場	・2022(令和4)年度さがまちカレッジⅡ期講座について ・さがまちカレッジの新しい取り組みについて
第2回 (第7期 第1回)	2022年7月13日	相模女子大学 茜館 催事場	・チームリーダーの選任について ・さがまちカレッジについて ・令和4年度さがまちカレッジⅢ期講座について
第3回 (第7期 第2回)	2022年10月11日	ユニコムプラザさがみはら セミナールーム2	・令和4年度さがまちカレッジⅣ期講座について ・令和5年度さがまちカレッジについて
第4回 (第7期 第3回)	2023年2月21日	相模女子大学 茜館 催事場	・2023(令和5)年度さがまちカレッジ企画提案について ・2023(令和5)年度さがまちカレッジⅠ期について

②キャリア支援プロジェクト

開催実績なし

附属明細書

事業における重要な事項は2022(令和4)年度事業報告書に記載されており、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」は、特にないため、当年度の附属明細書は作成しない。